

北海道海洋生物科学研究会 ニュースレター



The Newsletter of the Research Group for Hokkaido Marine Biological Sciences

No. 24 (2011年6月発行) 発行：北海道海洋生物科学研究会

1. 第10回シンポジウム(平成23年度) (網走) (山家 秀信)
2. オホーツク海の海洋生物を調べる ～東京農大サハリン沿岸生物調査プロジェクトの紹介～ (園田 武)
3. 事務局だより

1. 第10回シンポジウム(平成23年度) (網走)

平成23年6月14日

各位

第10回北海道海洋生物科学研究会シンポジウム実行委員
山家 秀信(東京農大生物産業)

第10回北海道海洋生物科学研究会シンポジウム
「水産資源の持続可能な保全・管理」開催のご案内

北海道海洋生物科学研究会は、水産学に限らず広く海洋生物の化学・生化学・生物学に関わる北海道の研究者の集まりです。本会は、北海道において海洋生物の化学・生理学・生態学などの調査研究を行い、会員間の情報交換及び交流を図ると共に、その成果を広く地域社会に普及することを目的とします。それを達成するために、1) 研究会並びに学術講演会の開催、2) その他、本会の目的に必要な調査・研究・知識の普及などの事業を行っています。

第10回シンポジウムは、道東の網走で開催されることになりました。網走は水産業や農業の町として安定した発展を遂げ、世界遺産「知床」も近く、将来へ向けて資源の持続可能な保全や管理を考えていただく上で、適地ではないでしょうか。

参加者は平成23年7月14日(木)までに、山家までE-mail, Fax, 郵送で参加申込をお願い申し上げます。参加費は無料です。会員外の参加も歓迎します。



記

1. 日時 平成23年7月22日(金) 13:00～
2. 場所 東京農大生物産業学部11号館201号室
3. スケジュール(講演20分、討論10分を予定、時間オーバーOK)

13:00 開会の挨拶(代表幹事)

13:05 網走市水産港湾部 渡部貴聴

「網走の漁業の概要と持続可能な漁業に向けた取り組み(仮題)」

13:35 北海道総合研究機構網走水産試験場 宮園章

「オホーツクの複数種についての資源管理(仮題)」

14:05 さけます内水面水産試験場道東内水面グループ
隼野寛史

「網走湖におけるシラウオの資源管理研究(仮題)」



14:35-14:50 休憩

14:50 東京農大生物産業 千葉晋

「水産資源管理における質の重要性～北海シマエビを例に～」

15:20 北海道大学大学院水産科学研究科 帰山雅秀

「サケ資源の持続可能な保全に向けた生態系アプローチ
型順応的管理とは(仮題)」



15:50 終了の挨拶(山家秀信)

16:00 北海道海洋生物科学研究会総会

4. 懇親会 18:00～「場所未定」網走市街地
会費: 5000円程度(当日受け付けます)「農大 山家千葉で予約」

5. 問い合わせ先 山家秀信(東京農大生物産業)

TEL 0152-48-3911、FAX 0152-48-3922

E-mail h3yambe@bioindustry.nodai.ac.jp

第10回北海道海洋生物科学研究会シンポジウムおよび懇親会の参加申込書

シンポジウム参加者ご芳名 _____

所属 _____

連絡先(電話か E-mail) _____

○をお付けください。

・18:00からの懇親会に

参加する

参加しない

連絡事項等ございましたら余白にご記入ください。

2. オホーツク海の海洋生物を調べる

～東京農大サハリン沿岸生物調査プロジェクトの紹介～

東京農業大学生物産業学部アクアバイオ学科水産増殖学研究室 園田 武

オホーツク海に面した北海道東部沿岸は非常に数多くの沿岸海跡湖（coastal lagoon）で特徴づけられます。地理学分野では、宗谷岬から納沙布岬までの海岸線を「海跡湖銀座」と言うくらいです。これらの海跡湖は河川水と海水が混合する混鹹性水域にもなっており、独特の生物群集が成立するとともに、地域漁業の重要な生産拠点にもなっています。

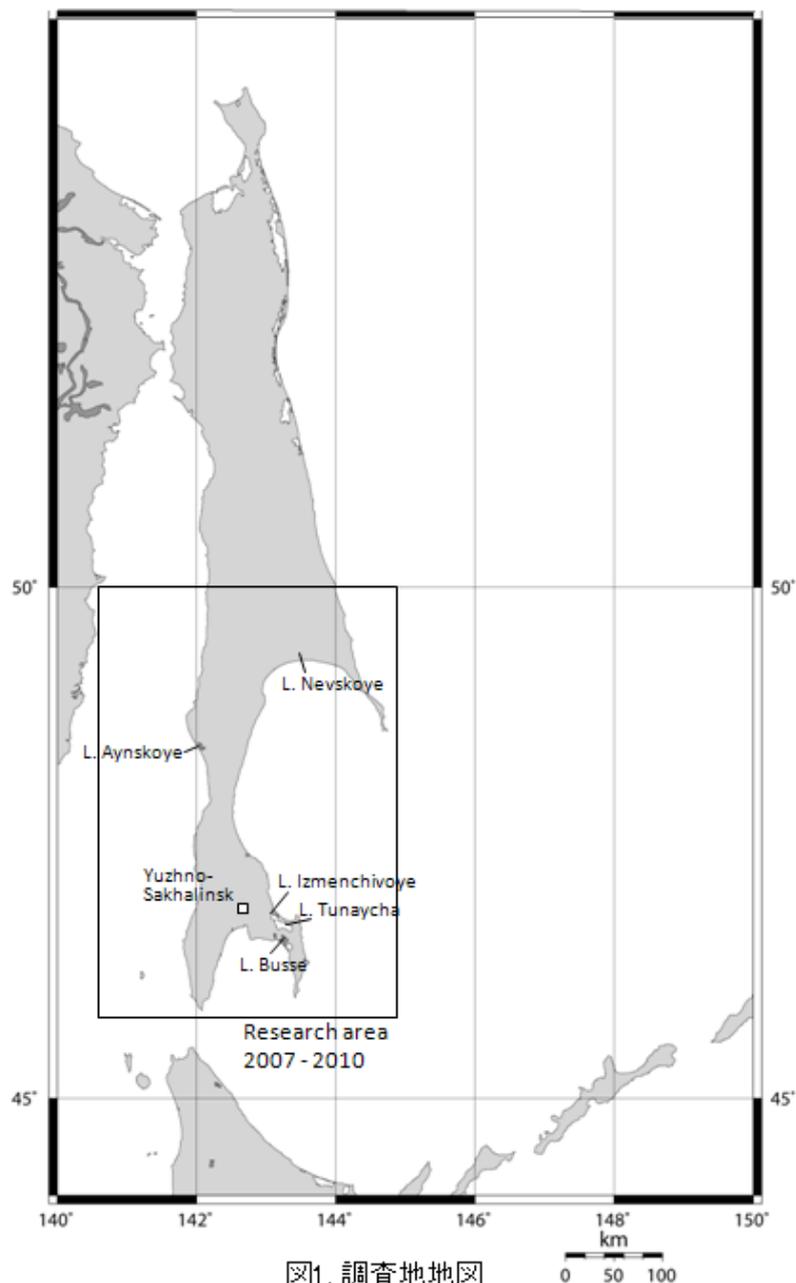
こうした沿岸海跡湖の発達には潮位差や砂州地形の形成などと深い関わりがあり、日本列島は世界全体で見ても海跡湖が多い場所になっています。

一方で、日本を取り囲む海の中で最もその沿岸に海跡湖が多いのがオホーツク海です。オホーツク海はユニークな海です。寒極がオホーツク海に近いことと、アムール川という大川が流入が影響して冬季に形成される流氷は、オホーツク海を流氷ができる世界最南端の海にしています。

さて、オホーツク海の海洋生物に関する研究はどのような進展状況にあるのでしょうか。オホーツク海を取り囲む沿岸線のほとんどはロシア領で、この海の世界最南端を日本が占めているという状態です。

知床半島が世界遺産に登録されたのは2005年7月のことです。海と陸の繋がりが登録の際のポイントとされていましたが、実際には知床半島の沿岸線の魚類や無脊椎動物相はまったく調べられていませんでした。では、アクセスしやすい稚内から斜里までの沿岸線の沿岸生物相は2011年現在まで、科学的に検証可能なやり方できちんと調べられているかどうか？実はこうした基礎研究すらも、非常に乏しいのが現状です。

オホーツク海の世界最南端でこの状況ですが、ではロシア側の沿岸域ではどうでしょうか？ロシアの科学者が様々な視点からオホーツク海沿岸の生物について調査研究しているようですが、ロシア語文献として外に出てこないものも多いようで、実状はよくわからない、というのが実態です。



私が勤務する東京農大生物産業学部（網走）に、水生生物を研究対象とする学科が新設されてから今年で6年目となりますが、地域生物相の学術的把握は大学の基本任務です。オホーツク海に面する日本唯一の大学として、オホーツク海の海洋生物相の把握は今後時間をかけてじっくり取り組みたい課題です。その様な認識のもと、当大学では「環オホーツク海沿岸生態系と沿岸生物相の調査研究と国際交流」というプロジェクトを平成19年から始め、今年で5年目になります。

本プロジェクトは、海生哺乳類（アザラシ）・鳥類（海ワシ類）・魚介類の3つのチームで編成されています。私の魚介類班は、これまでの4年間に図1に示すようなサハリン南部の主要な海跡湖とその周辺海岸で調査を行ってきました。サハリン島の南部や東側海岸線には非常に数多くの海跡湖があり、特に南部はかつて日本人が盛んに漁業を行っていた場所でもあります。

これまでの調査で、魚類30種、貝類58種、甲殻類10種、その他の無脊椎動物を含め100種以上を確認することができました。調査は現地へ行って海跡湖沿岸やその周辺海岸を歩いて周り（図2）、ひたすら生物採集をして分類同定を行うという方法によっています。これまでの調査を通じて感じたのは、北海道との生物地理的類似性の高さに加え、何より人の手が余り加えられていない自然状態が残されていることです。



図2 ポロナイスク周辺海岸

北海道の沿岸生物相との生物地理的類似性の高さは予想されたことですが、サハリンならではの発見もありました。

タラ科魚類は基本的に海産で重要な水産資源でもあります。淡水性の種が1種だけです。それがカワメンタイ *Lota lota* です（図3）。カワメンタイは日本には分布せず、北半球の高緯度域に分布しています。写真の個体はポロナイスク川で採集したものです。夜行性のカワメンタイの採集には並々ならぬ苦勞がありました。



図3 カワメンタイ

また、日本では深い水深帯に生息している生物が、海岸の調査で見つかるということもありました。オホーツクバイ *Buccinum ochotense* は日本では比較的深い水深から報告されていますが、本調査では潮間帯で見つけることができました（図4）。このことは生息水深の違いなどに関係しているのかもしれませんが。



図4 海岸で見つけた巻貝類の殻

北海道ならばホタテ養殖漁場になっていたであろう、数多くの湖は、大規模な漁業が行われている様子もなく、周囲にはまだ相対的に豊かな自然が残されていました。地球環境の変化の中で、こうした地域生物相は今後重要な意義を持つてくるのかもしれませんが。今年にはマガダンへ行って調査する予定です。今後も地道な調査を続けたいと考えています。

3. 事務局だより

1) 年会費納入のお願い

平成23年度年会費を同封の払込票で払い込んでください。一般会員1,000円、学生会員500円です。払込票には支払い年度（未納年度を含む）を記入しましたが、新年度分既納者には同封していません。

口座番号 02700-1-93161 加入者名 北海道海洋生物科学研究会

2) 平成23年度 総会の開催について

7月22日（金）に、東京農業大学オホーツクキャンパスで、当研究会の総会が開催されます。ご参集ください。総会について用件がある場合は、あらかじめ事務局（沖野）宛にご連絡をください。

3) 住所変更などの連絡のお願い

住所・所属先の変更がございましたら、事務局までお知らせ下さい。

北海道大学 沖野龍文 okino@ees.hokudai.ac.jp

4) 現在の会員名簿

現在の会員は以下の皆様です。本会会員であることを縁として交流が深まることを期待しています。

麻生真吾	釧路水試	澤田美智子	産総研	山家秀信	東農大
阿部剛史	北大総博	鈴木稔			
石井貴広		高橋是太郎	北大水		
石井正孝	泊村役場	高橋延昭	札医大	団体会員	
板橋豊	北大水	辻浩司	釧路水試	(株)エコニクス	
一宮慎吾	札医大	中野智	北科技総振セ		
内田卓志		西澤信	東農大		
尾島孝男	北大水	橋金作	エコニクス		
沖野龍文	北大地環	藤井賢彦	北大地球環境		
帰山雅秀	北大水	伏谷伸宏	北大水		
久保田高明	北大薬	松浦裕志	筑波大		
栗原秀幸	北大水	本山恵美子			
小林淳一	北大薬	山岸喬	北見工大		
佐々木達	エコニクス	山口篤	北大水		
坂本樹則	胆振水技	山下和則	エコニクス		

5) 記事募集

ニュースレターへの情報提供・投稿を随時募集しております。編集担当までお知らせ下さい。

北海道大学 阿部剛史 tabe@museum.hokudai.ac.jp

編集後記

今回の号では、シンポジウムが開催される東京農業大学で実施されている生物調査プロジェクトについて紹介していただきました。将来的には、以前発案されたように、当研究会を中心とした地域研究プロジェクトも実現できれば喜ばしいことだと思います。（阿）